



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	実習に対する児童の意識 : 被服製作と調理実習との相違点と類似点(fulltext)
Author(s)	堀内,かおる; 田部井,恵美子
Citation	東京学芸大学紀要 . 第 6 部門 , 産業技術・家政, 43: 173-186
Issue Date	1991-11-00
URL	http://hdl.handle.net/2309/4072
Publisher	
Rights	

実習に対する児童の意識

——被服製作と調理実習との相違点と類似点——

堀内かおる*・田部井恵美子

家庭科教育学**

(1991年7月19日受理)

HORIUCHI,K. and TABEL,E.:Pupils' Consciousness towards Practice at Home Economics Education—The Difference and the Resemblance between Dressmaking and Cooking—. Bull. Tokyo Gakugei Univ. Sect. 6, 43:173-186 (1991) ISSN 0387-8953

This study made clear the consciousness of 5th and 6th grade elementary school children about the difference and the resemblance between dressmaking and cooking.

The results were as follows;

- 1 The children were classified 4 types.— "indifferent type", "confident type", "highly motivated type" and "unskilled type".
- 2 The favorite impression about home economics education was related to the consciousness towards dressmaking and cooking.
- 3 The affirmative consciousness towards dressmaking was related to the confidence about dressmaking skill, and the affirmative consciousness towards cooking had influences of the interests on cooking. (in Japanese)

KEY WORDS:Elementary School, Homemaking Education, Practice, Dressmaking, Cooking.

Department of Home Economics Education, Tokyo Gakugei University, Koganei-shi, Tokyo 184, Japan.

1. 緒 言

実践的・体験的な教科である家庭科の特質を生かした指導内容の一つに、実習による内容をあげることができる。小学校第5・6学年児童の被服製作および調理実習に対する意識を調査

* 関東短期大学 (非) (374 群馬県館林市成島 625)

** 東京学芸大学 (184 小金井市貫井北町 4-1-1)

した結果、実習による成就感や有用性が認められている反面、性別役割分業意識の存在や、縫製および調理技術に対する自信の欠如、学習に対する否定的意識の学年にともなう増加、というような問題点が指摘されている¹⁾²⁾。

本研究は実習に対する児童の意識を形成する因子を明らかにし、児童の類型化を試み、被服製作と調理実習に対する児童の意識の相違点と類似点を明らかにしたものである。実習に対する児童の意識の類型を把握することは、ひとりひとりの児童に応じた実習指導を行う上で重要と考える。分析の結果、知見を得たので報告する。

2. 方 法

被服製作および調理実習に関する留置法による質問紙調査を、それぞれ異なる時期に行った。次に2つの調査の概要について述べる。

2. 1 被服製作に関する調査

2. 1. 1 調査対象

東京都内の小学校第5・6学年児童を対象とした。対象校は、国立大学附属小学校1校、世田谷区・大田区・調布市立小学校各1校、私立小学校1校の合計5校で、その内訳は、第5学年男子206名、第5学年女子185名、第6学年男子320名、第6学年女子278名、総計989名である。

2. 1. 2 調査実施期間

調査は、1989(平成1)年7月に行った。

2. 1. 3 調査方法

質問紙を使用し、留置法による集合調査を各学校の教諭に依頼して行った。

質問紙の内容は、児童の実態をふまえ、児童の被服製作に対する意識を表す項目を50項目設定した。各項目を表1に示す。

調査結果の分析は、以下の方法によるものである。

被服製作および調理実習に対する児童の意識調査を行った結果得られたデータをもとに、コンピュータプログラムパッケージSPSSXを用いて主因子法による因子分析を行い、バリマックス回転によりそれぞれ第5因子まで抽出した。さらに、同PPSSIを用いて、数量化Ⅲ類により対象児童の類型化を行った。

2. 2 調理実習に関する調査

2. 2. 1 調査対象

東京都内の小学校第5・6学年児童を対象とした。対象校は、国立大学附属小学校1校、世田谷区・調布市立小学校各1校、私立小学校1校の合計4校で、その内訳は、第5学年男子273名、第5学年女子228名、第6学年男子250名、第6学年女子228名、総計979名である。調査対象校は、上記の被服製作に関する調査対象校から大田区立小学校を除いた4校である。なお対象児童には上記の被服製作関連調査時に協力の得られなかった児童を一部、新たに加えたが、大部分は被服製作に関する調査対象児童と同一である。

2. 2. 2 調査実施期間

調査実施期間は1990(平成2)年2月～3月である。

2. 2. 3 調査方法

調査方法は、被服製作に関する調査と同様の方法を用い、調理実習に関する意識についての54項目からなる質問紙を使用した。各項目を表2に示す。

調査結果の分析は、被服製作と同様の方法によりコンピュータ処理を行った。

表1 被服製作に対する意識の項目

1	家庭科の授業で「縫って何かを作ること」をやりたい	26	きれいに玉結びを作るとは簡単だ
2	もっと難しいものを縫って作ることに挑戦したい	27	縫い目をそろえて真つすぐに、なみ縫いをすることは簡単だ
3	家庭科の時間に作らなかつたものを、自分で縫って作りたい	28	縫い目をそろえて真つすぐに、返し縫い(半返し縫い)をすることは簡単だ
4	家庭科で縫って作つたものと同じものをもう一度家で作りたい	29	玉が布から浮かさないようにして、玉どめを作るとは簡単だ
5	縫って何かを作るときは、自分の力で作り上げたい	30	布にしるしを付けることは簡単だ
6	縫って何かを作ることが好きだ	31	布をしるしどおりに裁ちばさみで裁つことは簡単だ
7	縫って何かを作るとはやりがいのあることだ	32	きれいでボタンを付けることは簡単だ
8	縫うことは練習すればうまくなると思う	33	手縫いで小物を作るとは簡単だ
9	もつとうまく縫えるようになりたい	34	ミシンを使って布を縫うことは簡単だ
10	手縫いで小物を作るとはおもしろい	35	他の人に比べて縫って何かを作るとは得意な方だ
11	ミシンを使って縫うことはおもしろい	36	縫って何かを作るとには自信がある
12	刺しゅうをすることに興味がある	37	自分は器用な方だと思う
13	家庭科で縫って何かを作るときは、他の友達を考えないようデザインにしたい	38	男の子は縫うことを勉強した方が良い
14	家庭科で縫って何かを作るときは、自分の好きな布を自由に買って用意したい	39	女の子は縫うことを勉強した方が良い
15	家庭科で縫って何かを作るときは、自分の好きなものを自由に考えて作りたい	40	男の子は縫うことができないと困る
16	あまうりうまくできなくても、自分で作り上げたものは気に入っている	41	女の子は縫うことができないと困る
17	縫って作ったものを誰かにプレゼントしたい	42	男の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う
18	苦勞して縫った作品ができ上がったときは、とてもうれしい	43	女の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う
19	手作りのものには作った人の心がこもっている	44	縫って何かを作るとは女らしいことだと思う
20	手作りのものをもらおうとうれしい	45	手縫いで縫うことはめんどうくさい
21	ミシンの使い方を覚えておくと役に立つと思う	46	縫って何かを作っているとすぐに飽きてしまう
22	色々な縫い方を覚えておくと役に立つと思う	47	うまく縫えないといらいらす
23	縫縫用具の使い方を覚えておくと役に立つと思う	48	縫い方を失敗してやり直しているとき、途中でやめてしまいたくなる
24	自分でボタンを付けられるようになることは役に立つ	49	うまく縫えないので、家庭科の勉強で縫って何かを作りたいくない
25	糸通しを使わないで針に糸を通すことは簡単だ	50	自分で縫って作つたものは、かっこ悪いので嫌いだ

表2 調理実習に対する意識の項目

1	家庭科の授業で調理実習をやりたい	28	調理したものには調理した人の心がこもっている
2	もっと難しい調理をすることに挑戦したい	29	家族の人たちは、自分の調理したものを喜んで食べてくれると思う
3	家庭科の調理実習でなかなか調理を自分でしてみたい	30	色々な調理の仕方を覚えておくに役に立つと思う
4	家庭科で実習した調理をもう一度家でしてみたい	31	調理用具の使い方を覚えておくに役に立つと思う
5	調理をするときは自分の力で作り上げたい	32	包丁やナイフを使って野菜や果物の皮をむくことは簡単だ
6	調理をするのが好きだ	33	包丁やナイフを使って野菜を同じくくらいの大きさに着ることは簡単だ
7	調理をするときはやりがいのあることだ	34	生野菜のサラダを作ることは簡単だ
8	調理は練習すればうまくなると思う	35	油いためを作ることは簡単だ
9	もっとうまく調理ができるようになりたい	36	おやつを作ることは簡単だ
10	包丁やナイフを使って果物や野菜の皮をむくことはおもしろい	37	計量スプーンや計量カップを使って調味料を正しく計ることは簡単だ
11	包丁やナイフを使って野菜や果物を同じくくらいの大きさに着ることはおもしろい	38	調理の後片付けで食器を洗うことは簡単だ
12	生野菜のサラダを作ることはおもしろい	39	他の人に比べて調理をすることが得意な方だ
13	油いためを作ることはおもしろい	40	調理をすることには自信がある
14	おやつを作ることはおもしろい	41	自分は器用な方だと思う
15	調理の後片付けで食器を洗うことはおもしろい	42	男の子は調理の仕方を勉強した方が良い
16	色々な調理をしてみたい	43	女の子は調理の仕方を勉強した方が良い
17	調理実習で調理をすることが楽しい	44	男の子は料理ができないと困る
18	調理実習で作ったものを食べるのが楽しい	45	女の子は調理ができないと困る
19	調理実習で班の人たちと力をあわせて協力することが楽しい	46	男の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思う
20	調理実習のときは、自分から進んで包丁やナイフで野菜を切ったりする方だ	47	女の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思う
21	調理実習のときは自分から進んで後片付けをする方だ	48	調理をすることは女らしいことだと思う
22	家庭科で調理実習をするときは、自分の好きな材料を自由に買って調理したい	49	調理をすることはめんどうくさい
23	家庭科で調理実習をするときは、自分の好きなものを自由に考えて作りたい	50	調理をしているとすぐに飽きてしまう
24	あまりうまくできなくても、自分で調理したものはおいしく感じる	51	うまく調理ができないといらいらする
25	家族の人たちに、自分で調理したものを食べてもらいたい	52	調理の仕方を失敗してやりなおしをしているとき、途中でやめてしまいたくなく
26	自分で調理したものを誰かに食べてもらいたい	53	調理がうまくできなないので、家庭科の勉強で調理実習をしたくない
27	苦労して調理したものができ上がったときは、とてもうれしい		

なお、被服製作と調理実習に関する調査項目については、結果の比較を可能にするため、「縫うことは練習すればうまくなると思う」、「調理は練習すればうまくなると思う」というように、相互に対応するような項目を用いている。

3. 結果および考察

3. 1 被服製作および調理実習に対する意識を形成する因子

3. 1. 1 被服製作について

被服製作に対する児童全体の意識について、5つの因子が抽出された。第1因子から第5因子を表す項目を表3に示す。

第1因子は、全分散の34.5%を占めており、「苦勞して縫った作品ができて上がったときはとてもうれしい」という成就感や、「色々な縫い方を覚えておくと役に立つ」という有用性の意識、「もっとうまく縫えるようになりたい」という意欲を示す項目等からなる因子である。これらの項目は、いずれも被服製作に対する肯定的な意識を示すものであることから、「肯定性因子」と命名する。

第2因子は、全分散の4.9%を占めており、「なみ縫いをする事」、「返し縫いをする事」、「ボタンを付ける事」、「玉どめを作る事」等を「簡単だ」と思う意識や、「縫って何かを作る事には自信がある」という項目にみられるような被服製作に対する自信を示す項目が抽出されている。これらの項目は、みな被服製作技術に関する内容であるため、「技術因子」と命名する。

第3因子は、全分散の4.2%を占めるものである。抽出された項目には、「途中でやめなくなる」、「いらいらする」、「飽きてしまう」、「めんどくさい」、「かっこ悪いので嫌い」というように、いずれも被服製作に対する否定的な意識が表れている。このような意識は、第1因子に対応するものとして、「否定性因子」と命名する。

第4因子は、「男の子は縫うことを勉強した方が良い」、「男の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う」、「男の子は縫うことができないと困る」の3つの項目からなり、全分散に占める割合は2.4%である。これらの項目は、男子に対する被服製作実習の必要性を示していることから、「男子の役割因子」と命名する。

第5因子は、第4因子に対応して「女の子は縫うことができないと困る」、「女の子は縫うことを勉強した方が良い」、「女の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う」、「縫って何かを作ることは女らしいことだと思う」という、女子の役割としての被服製作に関する意識から形成されている。全分散中の2.1%を占める因子であり、これを「女子の役割因子」と命名する。

以上のように、被服製作に対する児童の意識は、実習に対する肯定性および否定性、製作技術に対する自己評価、そして性別役割分業意識に基づく考え方という4つに大別される因子をもとに形成されていることがわかる。

3. 1. 2 調理実習について

調理実習に対する児童の意識は、因子分析の結果、5つの因子からなることが明らかになった。表4は、各因子を表す項目を示したものである。

表 3 被服製作に対する児童の意識を構成する因子

第1因子(肯定性因子)		第2因子(技術因子)		第3因子(否定性因子)	
項目	因子負荷量	項目	因子負荷量	項目	因子負荷量
18 苦勞して縫った作品ができ上がったときは、とてもうれしい	.69798	27 縫い目をそろえて真つすぐに、なみ縫いをする	.68936	48 縫い方を失敗してやりなおしをしているとき、途中でやめてしまいたくなる	-.66540
22 色々な縫い方を覚えておくのと役にたつと思う	.68808	28 縫い目をそろえて真つ直ぐに、返し縫い(半返し縫い、本返し縫い)をすることは簡単だ	.65829	46 縫って何かを作っているとすぐに飽きてしまう	-.58659
8 縫うことは練習すればうまくなると思う	.68499	32 きれいにボタンをつけることは簡単だ	.64270	45 手縫いで縫うことはめんどうくさい	-.58247
24 自分でボタンを付けられるようになることは役に立つ	.68225	29 玉が布から浮かないようにして、玉どめを作ることは簡単だ	.63325	50 自分で縫って作ったものは、かっこ悪いので嫌いだ	-.50773
23 裁縫用具の使い方を覚えておくのと役に立つ	.67872	33 手縫いで小物を作ることは簡単だ	.62214		-.46334
21 ミシンの使い方を覚えておくのと役に立つ	.66925	26 きれいに玉結びを作ることは簡単だ	.61021		
5 縫って何かを作るときは、自分の力で作り上げたい	.64594	36 縫って何かをつくることは自信がある	.59046		
9 もっとうましく縫えるようになりたい	.63086	30 布にしるしを付けることは簡単だ	.54847		
7 縫って何かを作るときはやりがいのあることだ	.62692	34 ミシンを使って布を縫うことは簡単だ	.54602		
20 手作りのものをもろうとうれしい	.60906	25 米通しを使わないで針に糸を通すことは簡単だ	.54463		
10 手縫いで小物を作ることはおもしろい	.60183	31 布をしるしどおりに裁ちばさみで裁つことは簡単だ	.53268		
19 手作りのものには作った人の心がこもっている	.57551	37 自分は器用な方だと思う	.53168		
13 家庭科で縫って何かを作るときは、他の友達と考えないようにならなさい	.57002	35 他の人に比べて縫って何かを作ることが得意な方だ	.53003		
3 家庭科の時間に作ったものを自分で縫って作りたい	.56772				
2 もっと難しいものを縫って作ることに挑戦したい	.52070				
15 家庭科で縫って何かを作るときは、自分の好きなものを自由に考えて作りたい	.51913				
1 家庭科の授業で縫って何かをつくることをやりたい	.50242				
11 ミシンを使って縫うことはおもしろい	.47102				
16 あまりうまくできなくても、自分で作り上げたものは気に入っている	.46179				
12 刺しゅうをすることに興味がある	.43287				
17 縫って作ったものを誰かにプレゼントしたい	.41572				
14 家庭科で縫って何かを作るときは、自分の好きな布を自由に買って用意したい	.40945				
4 家庭科で縫って作ったものと同じものをもう一度家で作りたい					
		第4因子(男子の役割因子)		第5因子(女子の役割因子)	
		項目	因子負荷量	項目	因子負荷量
		38 男子の子は縫うことを勉強したほうが良い	.59420	41 女の子は縫うことができないと困る	.72871
		42 男子の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思ふ	.54662	39 女の子は縫うことを勉強した方が良い	.67414
		40 男子の子は縫うことができないと困る	.44372	43 女の子でうまく縫えないことは、恥ずかしいことだと思ふ	.63230
				44 縫って何かを作るとは女らしいことだと思ふ	.50321

表4 調理実習に対する児童の意識を構成する因子

第1因子 (肯定性因子)		第2因子 (技術因子)		第3因子 (否定性因子)	
16 色々な調理を試してみたい	.77544	32 包丁やナイフを使って野菜や果物の皮をむくことは簡単だ	.73895	49 調理をすることはめんどろくさい	-.69765
17 調理実習で調理することが楽しい	.75568	33 包丁やナイフを使って野菜を同じくらいの大きさに切ることは簡単だ	.70537	52 調理の仕方を失敗してやり直しをしているとき、途中でやめてしまいたくなる	-.66359
27 苦労してもうれしかった	.75556	35 油いためを作ることは簡単だ	.67996	50 調理をしているとすぐに飽きてしまう嫌いだ	-.58636
31 調理用具の使い方を覚えておくと思っとうまく調理ができるようになる	.73698	36 おやつを作ることは簡単だ	.67139	54 自分で調理したものはおいしくないのでは	-.53689
9 もっと調理の仕方を覚えておくことに立つと思う	.72401	39 他の人に比べて調理をすることが得意な方だ	.63986	53 調理がうまくできないので、家庭科の勉強で調理実習をしたくない	-.46733
30 色々な調理の仕方を覚えておくことに立つと思う	.72260	40 調理をすることには自信がある	.63882	51 うまく調理ができないという思いが強い	-.44734
7 調理をすることはやりがいい	.71596	37 計量スプーンや計量カップを使って調味料を正しく計ることは簡単だ	.59506		
3 家庭科の調理実習でなかった調理を自分でしてみたい	.70300	34 生野菜のサラダを作ることは簡単だ	.58474		
25 家族の人たちに自分で調理したものをたべてもらいたい	.69757	38 調理の後片付けで食器を洗うことは簡単だ	.54171		
4 家庭科で実習した調理をもう一度家でしてみたい	.69170	41 自分は器用な方だと思っとうまく調理ができる	.51384		
6 調理をすることが好きだ	.68873				
5 調理をするときは自分の力で作り上げた	.67717				
8 調理は練習すればうまくなると思っとうまく調理をすることが好きだ	.67057				
2 もっと難しい調理をすることに挑戦したい	.65744				
12 生野菜のサラダを作ることはおもしろい	.64962				
28 調理したものはおいしく感じる	.63968				
29 家族の人たちは自分の調理したものを喜んで食べてくれると思っとうまく調理をすることが好きだ	.63871				
24 あまりうまくできなくても自分で調理したものはおいしく感じる	.63574				
26 自分で調理したものを誰かに食べてもらいたい	.63389				
14 おやつを作ることはおもしろい	.63122				
1 家庭科の授業で調理実習をやりたい	.62885				
13 油いためを作ることはおもしろい	.62824				
18 調理実習で作ったものを食べるのが楽しい	.62454				
11 包丁やナイフを使って野菜や果物を同じくらいの大きさに切ることはおもしろい	.50859				
10 包丁やナイフを使って野菜や果物の皮をむくことはおもしろい	.47463				
20 調理実習のときはお皿から進んで包丁やナイフで野菜を切ったりするほうだ	.47092				
22 家庭科で調理実習をするときは自分の好きな材料を自由に使って用意したい	.42042				
23 家庭科で調理実習をするときは自分の好きなものを自由に使って作りたい	.42041				
15 調理の後片付けで食器を洗うことはおもしろい	.41212				
		第4因子 (女子の役割因子)		第5因子 (男子の役割因子)	
		45 女の子は調理ができないと困る	.77600	42 男の子は調理の仕方を勉強したほうが良い	.77141
		43 女の子は調理の仕方を勉強したほうが良い	.68650	44 男の子は調理ができないと困る	.73271
		47 女の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思っとうまく調理ができる	.65811	46 男の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思っとうまく調理ができる	.63223
		48 調理をすることは女らしいことだと思っとうまく調理ができる	.50878		

第1因子は、全分散の40.1%であり、「色々な調理をしてみたい」、「調理をすることが楽しい」、「役に立つ」、「おもしろい」というように、調理実習に対する肯定的な意識を示している。したがって、被服製作同様、「肯定性因子」と命名する。

第2因子は、全分散の4.6%を占め、調理実習の具体的な内容について「簡単だ」と思う意識および「調理をすることには自信がある」、「自分は器用な方だと思う」等に見られる調理実習に対する自信を表す項目が抽出されている。第2因子も被服製作に対する意識と同様に、「技術因子」と命名する。

第3因子は、全分散の4.1%を占める因子で、「調理をすることはめんどくさい」をはじめとする否定的意識に関する項目からなるものであり、「否定性因子」と命名する。この因子も被服製作においても認められている。

第4因子としては、「女の子は～」ということばから始まる女子が調理をすることに関する項目が抽出され、「女子の役割因子」と命名する。全分散中の割合は2.8%である。

第5因子は、第4因子に対して「男の子は～」という一連の項目からなる因子である。全分散に占める割合は、2.2%であり、男子が調理をすることに対する考え方を表す項目であることから、「男子の役割因子」と命名する。

調理実習に関する5つの因子は、被服製作について抽出された因子と同様に命名されることから、両実習に対する児童の意識に類似した傾向が見いだされる。

3. 1. 3 被服製作および調理実習の「肯定性因子」を形成する項目の比較

両実習における第1因子「肯定性因子」の因子負荷量の高い項目をみると、両者には相違点が認められる。すなわち、被服製作は、まず第1に「苦勞して縫った作品ができて上がったときはとてもうれしい」という成就感に関する項目があげられている。続いて、有用性に関する項目や「縫うことは練習すればうまくなる」という項目が上位を占めている。

一方、調理実習に関しては、第1にあげられているのが「色々な調理をしてみたい」という意欲を表す項目である。次に続く「調理をすることが楽しい」も、意欲に関する項目となっている。

このことから、実習に対する「肯定性」を象徴する項目として、被服製作は成就感を、調理実習は意欲をあげることができる。つまり、被服製作では作り上げた結果としての作品および作り上げたことに対する満足感が、児童にとって実習そのものの意味を左右する要因と考えられ、調理実習については、実習をすることへの意欲や実習の楽しさが、実習に対する意識に影響を与えるといえよう。

これらの両実習に対する肯定性を象徴する意識の相違は、個人の作業に終始し、作品が形として残る被服製作と、主にグループで作業を行い、試食し、時間内で作業を終える調理実習、という両実習の相違点の一面を反映しているものと考えられる。

3. 2 児童の類型化

次に、因子分析の結果得られた被服製作および調理実習に対する意識をふまえ、数量化Ⅲ類によって調査対象児童の類型化を試みた結果について述べる。

数量化Ⅲ類については先の表1および表2に示した質問項目を、それぞれ「そう思う」と「そう思わない」の2種類の回答を用意し、第1軸と第2軸を交差させることによって、児童の意識を座標平面上に表した。ここで示した調査項目は、被服操作と調理実習を対照させるために、双方に共通する表現のもののみをとりあげ、質問項目について「そう思わない」という意

識には同じ番号にマイナスの符号を付けて表した。

さらに, 性別, 学年, 家庭科に対する好感度による児童の意識の変化を比較した。

3. 2. 1 被服製作に対する児童の類型化

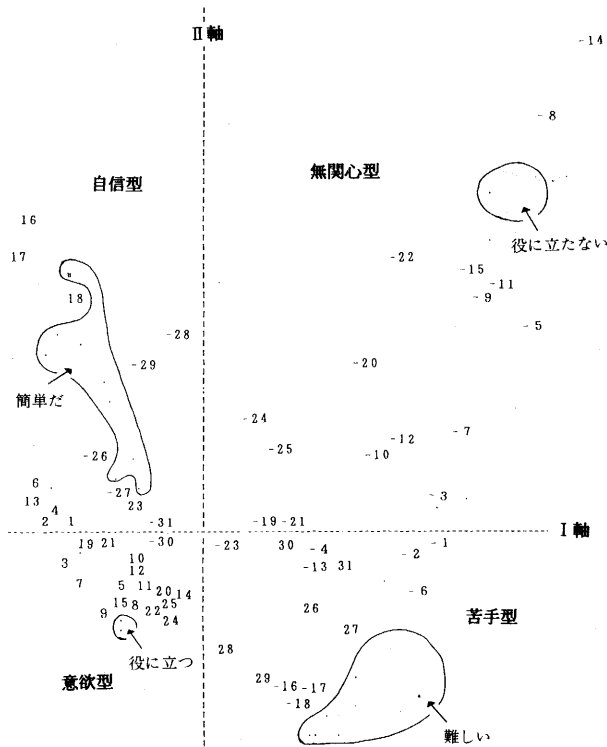
図1は, 被服製作における児童の意識を示す項目をプロットしたものである。第1軸にはプラス方向に実習に対する否定的な意識の項目が示され, マイナス方向に実習に対する意欲に関する項目が表れている。したがって, 第1軸については「意欲の有無に関する軸」と命名する。

また, 第2軸は, プラス方向に被服製作技術に対する自信に関する項目が示され, マイナス方向に被服製作を苦手とする意識の項目が表れていることから, 「技術の難易に関する軸」と命名する。

第1象限に位置する児童は, 「作品ができ上がってもうれしくないと思わない」, 「役に立つと思わない」, 「おもしろいとは思わない」等の意識が認められることから, 被服製作に対する「無関心型」と命名する。被服製作を学習することの必要性を感じておらず, 関心の薄い児童である。

第2象限に位置する児童は, 被服製作が得意で自信を持っており, 縫製技術を簡単だとみなし, 被服製作を好み, 「もっと難しいもの」を作りたいと思っている。そこで, 「自信型」と命名する。

第3象限に位置する児童は, 性別役割分業意識にとらわれることなく, 被服製作学習の



1 (-1)	家庭科の授業で縫って何かを作ることをやりたい (やりたくない)
2 (-2)	もっと難しいものを縫って作ることに挑戦したい (したくない)
3 (-3)	家庭科の授業で作らなかったものを自分で縫って作りたい (作りたくない)
4 (-4)	家庭科で縫って作った同じものをもう一度家で作りたい (作りたくない)
5 (-5)	縫って何かを作るときは自分の力で作り上げたい (作り上げたくない)
6 (-6)	縫って何かを作ることが好きだ (好きではない)
7 (-7)	縫って何かを作ることがやりがいのあることだ (そう思わない)
8 (-8)	縫うことは練習すればうまくなると思う (思わない)
9 (-9)	もっとうまく縫えるようになりたい (なりたくない)
10 (-10)	家庭科で縫って何かを作るときは自分の好きな布を自由に買って用意したい (ほか)
11 (-11)	家庭科で縫って何かを作るときは自分の好きな布を自由に考えて作りたい (作りたい)
12 (-12)	縫って作ったものを自分で作り上げたものは気に入っている (気に入らない)
13 (-13)	縫って作ったものを誰かにプレゼントしたい (したくない)
14 (-14)	苦労して縫った作品ができ上がったときはとてもうれしい (うれしくない)
15 (-15)	手作りのものには作った人の心がこもっている (こもっていない)
16 (-16)	他の人比べて縫って何かを作ることが得意な方だ (得意ではない)
17 (-17)	縫って何かを作ることに自信がある (ない)
18 (-18)	自分は器用な方だと思う (思わない)
19 (-19)	男の子は縫うことを勉強した方がよい (しなくてよい)
20 (-20)	女の子は縫うことを勉強した方がよい (しなくてよい)
21 (-21)	男の子は縫うことができないと困る (困らない)
22 (-22)	女の子は縫うことができないと困る (困らない)
23 (-23)	男の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う (思わない)
24 (-24)	女の子でうまく縫えないことは恥ずかしいことだと思う (思わない)
25 (-25)	縫って何かを作ることは女らしいことだと思う (思わない)
26 (-26)	手縫いで縫うことはめんどろくさい (めんどろくさいではない)
27 (-27)	縫って何かを作っているとすぐに飽きてしまう (飽きない)
28 (-28)	うまく縫えないといらいらす (しない)
29 (-29)	縫い方を失敗して物おしれいでは途中でやめてしまいたくなる (ならない)
30 (-30)	うまく縫えないので家庭科の勉強で縫って何かを作りたい (作りたくない)
31 (-31)	自分で作ったものはかっこ悪いので嫌いだ (そう思わない)

図1 被服製作に対する意識にもとづく児童の類型化

必要性を認め、関心が高い児童である。このタイプは、被服製作にやりがいを見だし、自分の力で作り上げたいと考え、うまく縫えるようになりたいと思っていることから、「意欲型」と命名する。

第4象限に位置する児童は、被服製作に対する学習意欲に乏しく、縫製技術について劣等感を持っていることから、「苦手型」と命名する。

ところで、この児童の類型は、性・学年そして家庭科に対する好感度の影響を受けている。男子は被服製作に「無関心型」の傾向がみられるのに対し、女子は「意欲型」であるといえる。

また、第5学年のときは「意欲型」であるのが、第6学年になると「無関心化」へと移行し、学年にともない学習意欲の減少することが示されている。

家庭科の好感度についてみると、家庭科の「とても好き」な児童は「自信型」に属し、「少し好き」、「少し嫌い」、と変化するにつれて「苦手型」へと移行し、家庭科が「とても嫌い」な児童は、「無関心型」に属している。

さらに、第1軸と第2軸を交差させた平面上に今回の調査対象児童の各象限における分散の状態を示したものが、図2である。

4つの象限にわたって広く分布しているが、「自信型」および「意欲型」を示す第2・第3象限により集中しているといえる。しかし、第1象限の「無関心型」の児童の存在については、指導上留意しなければならない点であろう。

3. 2. 2 調理実習に対する児童の類型化

調理実習に対する児童の意識をプロットしたものが、図3である。第1軸には、プラス方向に被服製作の場合と同様に実習に対する否定的な意識の項目が、マイナス方向に意欲に関する項目が示されており、「意欲の有無に関する軸」と命名する。

第2軸についても被服製作と同様の傾向を示しており、プラス方向に調理技術に対する自信に関する項目が示され、マイナス方向に調理を苦手とする意識の項目が示されている。よって、

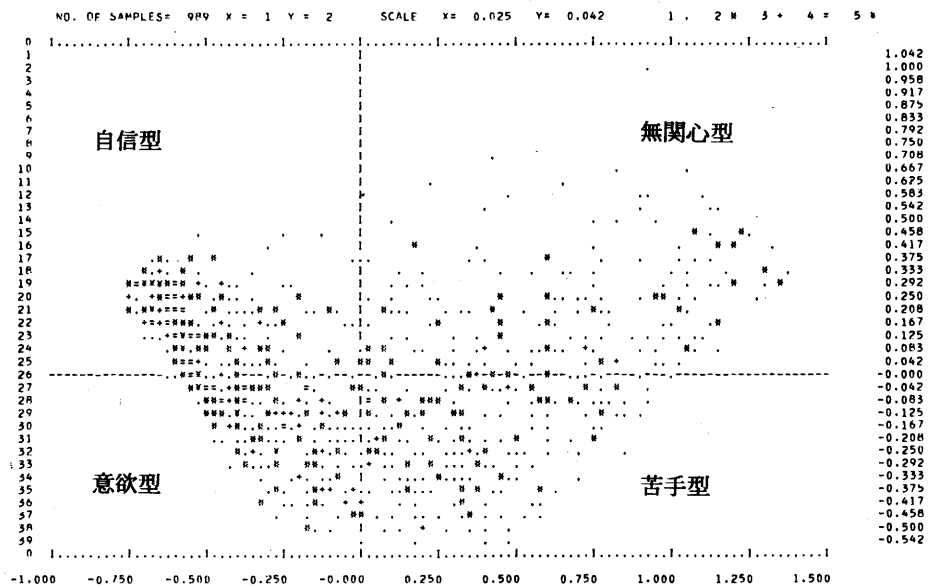


図2 調査対象児童の分布 (被服製作)

第2軸も被服製作の場合と同様に「技術の難易に関する軸」と命名する。

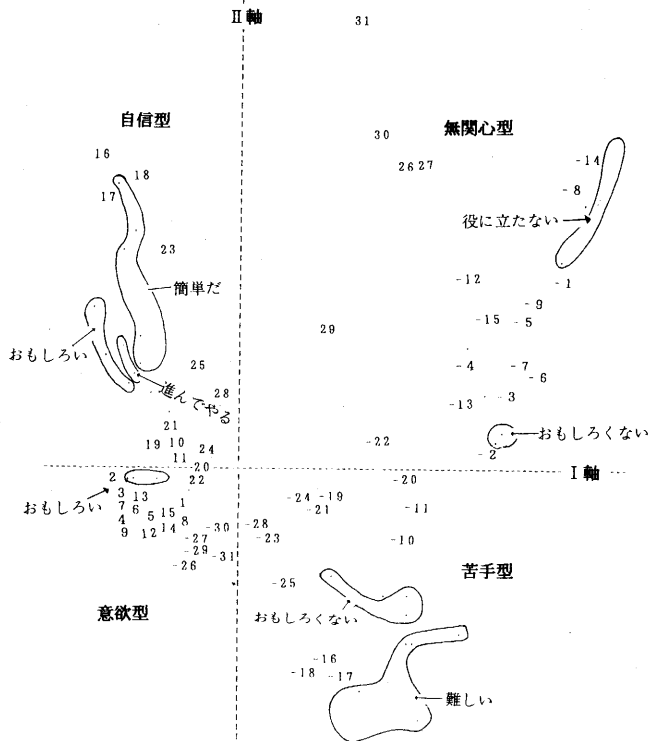
各象限をみると、被服製作と同様の類型化が示され、第1象限「無関心型」、第2象限「自信型」、第3象限「意欲型」、第4象限「苦手型」と示される。「無関心型」の児童は、調理は役に立たず、練習してもうまくならず、やりがいのないものであると考えている。被服製作にもみられるこの「無関心型」は、家庭科の授業それ自体の見直しをはかるとともに、このような意識の児童の生活態度や他教科に対する取り組み方等についても把握することを通して、「無関心」の原因を明らかにする必要がある。

児童の類型の性・学年・家庭科の好感度による変化については、次のとおりである。

男子はどちらかというと「苦手型」に属しており、女子は「自信型」に該当する。これは、被服製作に対する意識と異なっている点である。

学年による変化は、第5学年での「意欲型」から第6学年の「無関心型」へと、わずかながら移行する。

家庭科の好感度の影響については、家庭科が「とても好き」な児童は「自信型」、「少し好き」な児童は「意欲型」、「少し嫌い」な児童は「苦手型」、「とても嫌い」な児童は「無関心型」となり、関連が認められる。このような関連は被服製作に対しても認められるが、被服製作については前述のように家庭科が「少し好き」および「少し嫌い」な児童はいずれも「苦手型」に



1	(-1) 家庭科の授業で調理実習をやりたい(やりたくない)
2	(-2) もっと難しい調理をすることに挑戦したい(したくない)
3	(-3) 家庭科の調理実習でしなかった調理を自分でしてみたい(したくない)
4	(-4) 家庭科で実習した調理をもう一度家でしてみたい(してみたくない)
5	(-5) 調理をするときは自分の力で作り上げたい(作り上げたくない)
6	(-6) 調理することが好きだ(好きではない)
7	(-7) 調理することはやりがいのあることだ(そう思わない)
8	(-8) 調理は練習すればうまくなると思う(思わない)
9	(-9) もっとうまく調理ができるようになりたい(なりたくない)
10	(-10) 家庭科で調理実習をすれば自分の好きな材料を自由に買って用意したい(はくぬ)
11	(-11) 家庭科で調理実習をすれば自分の好きな材料を自由に考えて作りたい(作朕くぬ)
12	(-12) 自分で調理したものは気に入っている(気に入らない)
13	(-13) 自分で調理したものを誰かに食べてもらいたい(そう思わない)
14	(-14) 苦労して調理したものができ上がったときはとてもうれしい(うれしくない)
15	(-15) 調理したものには調理した人の心がこもっている(こもっていない)
16	(-16) 他の人に比べて調理をすることが得意な方だ(得意ではない)
17	(-17) 調理をすることには自信がある(ない)
18	(-18) 自分は器用な方だと思う(思わない)
19	(-19) 男の子は調理の仕方を勉強した方がよい(しなくてよい)
20	(-20) 女の子は調理の仕方を勉強した方がよい(しなくてよい)
21	(-21) 男の子は調理ができないと困る(困らない)
22	(-22) 女の子は調理ができないと困る(困らない)
23	(-23) 男の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思う(思わない)
24	(-24) 女の子でうまく調理ができないことは恥ずかしいことだと思う(思わない)
25	(-25) 調理をすることは女らしいことだと思う(思わない)
26	(-26) 調理することはめんどろくさい(めんどろくさいではない)
27	(-27) 調理をしているとすぐに飽きてしまう(飽きない)
28	(-28) うまく調理ができないといらいらす(しない)
29	(-29) 調理の仕方を失敗して物忘れ(いら)途中でやめてしまいたくなる(ならない)
30	(-30) 調理がめんどろくさいので家庭科の勉強で調理実習をしたくない(したい)
31	(-31) 自分で調理したものはおいしくないで嫌いだ(そう思わない)

図3 調理実習に対する意識にもとづく児童の類型化

属しており、調理実習に対する結果とは、やや異なっている。しかし、被服製作、調理実習ともに家庭科に対する好感度の影響は大きいといえる。

図4は、第1・第2軸を交差させ、調査対象児童を各象限にプロットしたものであるが、被服製作に対する意識に基づく図2と非常に似かよった形を示している。被服製作同様、第2象限の「自信型」と第3象限の「意欲型」への集中が認められる。

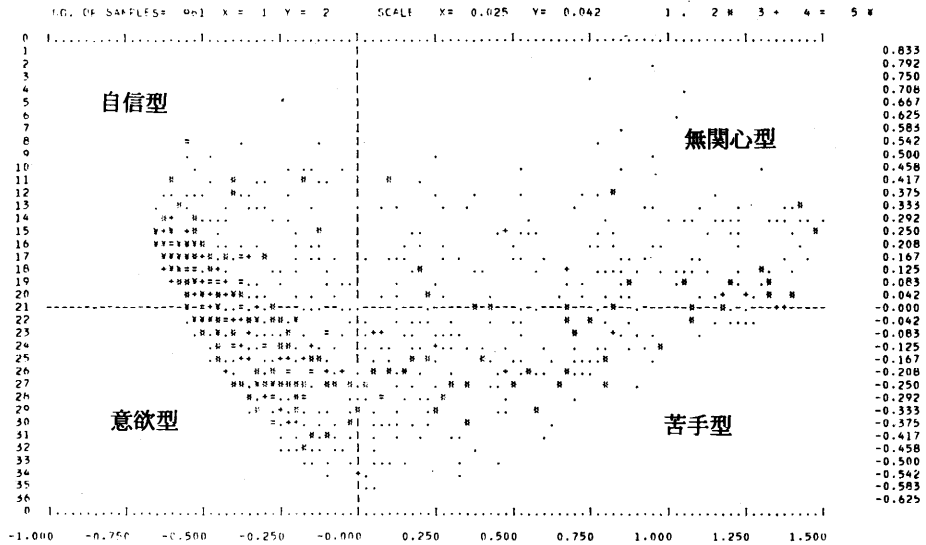


図4 調査対象児童の分布 (調理実習)

3. 2. 3 児童の意識からみる被服製作と調理実習の相違点と類似点

先に示した図1と図3を比較しながら、被服製作と調理実習に対する児童の意識の相違点と類似点を見ることにする。

被服製作と調理実習について調査項目の分布状況にみられるおもな相違点をあげると、次の6点が指摘される。①「めんどくさい (項目番号26)」、「飽きてしまう (27)」、「途中でやめてしまいたくなる (29)」、「したくない (30)」、「嫌いだ (31)」という否定的な意識は、被服製作については「苦手型」に示され、調理実習については「無関心型」に示される。②「うまくできないといらいらす (28)」のは、被服製作については「苦手型」、調理実習については「自信型」に示される。③「家庭科の授業でやりたい (1)」、「もっと難しいものを作りたい (2)」、「家庭科で実習したことをもう一度してみたい (4)」、「製作 (実習) をすることが好きだ (6)」という意欲に関する意識は、被服製作については「自信型」、調理実習については「意欲型」に示される。④「男の子は縫うこと (調理) を勉強したほうが良い (19)」、「男の子は縫うこと (調理) ができないと困る (21)」、「女の子でうまくできないことは恥ずかしいこと (24)」、「被服製作 (調理) は女らしいこと (25)」と考えるのは、被服製作については「意欲型」、調理実習については「自信型」に示される。⑤「自分で作ったものを誰かにプレゼントしたい (食べてもらいたい) (13)」と考えるのは、被服製作では「自信型」、調理実習では「意欲型」に示される。⑥「自分の好きな材料を用意したい (10)」、「自分の好きなものを作りたい (11)」という意識は、被服製作では「意欲型」、調理実習においては「自信型」に示され

る。

類似点については以下のとおりである。①「役に立たない」と考える意識の項目は、「無関心型」に示される。②縫製技術、調理技術について「簡単だ」と思う意識の項目は「自信型」、「難しい」と思うのは「苦手型」に示される。③「意欲型」に共通に認められる項目は、次の10点である。「家庭科でしなかったものを作りたい(3)」、「自分の力で作り上げたい(5)」、「やりがいのあることだ(7)」、「練習すればうまくなる(8)」、「うまくなりたい(9)」、「あまりうまくできなくても気に入っている(12)」、「でき上がったときはとてもうれしい(14)」、「作った人の心がこもっている(15)」、「女の子は、できないと困る(22)」、「うまくできないけれど、製作(実習)をしたい(-30)」。

被服製作と調理実習に対する意識の相違点から、被服製作については「製作をすることが好き」にみられるような学習に対する肯定的な意識が「自信型」に属しており、調理実習よりも技術的な面に対する自信が、実習に対する取り組み方に影響を及ぼすものと考えられる。また、男子および女子に対する実習の必要性に関する意識は、いずれも被服製作については「意欲型」、調理実習では「自信型」に属することが認められる。

4. 要 約

被服製作と調理実習に対する児童の意識をもとに、児童の意識を形成する因子の解明ならびに対象児童の類型化を試みた結果は、以下の4点に要約される。

- 1 被服製作および調理実習に対する児童の意識には、実習に対する「肯定性因子」および「否定性因子」、「技術因子」、そして「男子の役割因子」と「女子の役割因子」が内在している。しかし、実習に対する肯定性を示す意識には両実習に相違が認められ、被服製作は成就感を、調理実習は意欲をあげることができる。
- 2 被服製作に対する意識に基づき、児童を類型化した結果、「無関心型」、「自信型」、「意欲型」、「苦手型」の4類型に分類することができる。男子は「無関心型」、女子は「意欲型」の傾向がみられ、学年別では第5学年の「意欲型」から第6学年が「無関心型」に移行する傾向を示す。家庭科に対する好感度も被服製作に対する意識に影響を及ぼし、家庭科が「とても好き」な児童は「自信型」、家庭科の「とても嫌い」な児童は「無関心型」に属する。
- 3 調理実習に対する児童の類型化によると、児童は被服製作の場合と同様に、「無関心型」「自信型」、「意欲型」、「苦手型」の4類型に分類される。しかし、被服製作の場合とは異なり、男子は「苦手型」、女子は「自信型」の傾向がある。学年間の変化は被服製作と同様で、第6学年になると「無関心型」へと移行する。また、家庭科に対する好感度は、調理実習に対する意識の上にも影響を及ぼすものである。
- 4 被服製作と調理実習に対する意識の相違点から、学習に対する肯定的な考え方は、被服製作については縫製技術に関する自信と関連しており、調理実習に関しては、調理そのものに対する興味・関心が、影響を及ぼしていると考えられる。

被服製作と調理実習に対する児童の意識を形成する因子は等しく、同様の類型に児童が分類される。両者は児童が自ら活動し、実習を成し遂げるといふ点において類似しているといえよう。しかし、各類型を構成する個々の意識を比較すると、技術的な面に関する自信が実習への取り組みに影響を及ぼしている被服製作と、実習そのものに対する意欲があらわれる調理実習、という相違が認められる。

鈴木³⁾は、「男女が共に学ぶにふさわしい実習題材」という観点から、被服製作学習と調理実習をとりあげ、中学校および高等学校の家庭科担当教師を対象とした調査を行っている。その結果、教師の考える被服製作学習の意義として、まず「製作の喜びをあげよう」ことがあげられ、調理実習を行う第1の意義は、「日常の献立の調理法が学習できる」とこととされている。このような被服製作および調理実習の意義は、本調査の結果より認められた児童の両実習に対する肯定的意識の傾向とも共通するものである。したがって、被服製作については、児童が途中で挫折することなく成就感を味わえるような作品の教材化が求められ、調理実習については、一人一人の児童が「調理をしてみる」ことが、学習に対する肯定的な見方に結びつくものと思われる。

両実習の指導に際し、本研究の結果から得られた児童の類型をもとに、それぞれの類型に応じた指導方法が検討されなければならないが、その際、「無関心型」の児童に対するアプローチについては、その原因解明とともに、今後の課題と考える。

引用文献

- 1) 堀内かおる, 武井洋子, 田部井恵美子 家庭科の学習に対する児童の意識 (第1報) - 被服製作に対する意識 - 日本家庭科教育学会誌投稿中
- 2) 堀内かおる, 武井洋子, 田部井恵美子 調理実習に対する児童の意識 日本家庭科教育学会第33回大会研究発表講演要旨 p. 6 (1990)
- 3) 鈴木洋子 これからの中学校家庭科における被服製作学習・調理実習について - 家庭科担当教師の意識 - 日本家庭科教育学会誌 32.3 pp. 9~15 (1989)

参考文献

- 1) 赤堀也監修 安本美典・本田正久著 『因子分析法』 培風館 (1981)
- 2) 司馬正次編著 『やさしいデータ解析 - SPSSXによる -』 東洋経済新報社 (1989)